

陸連時報 三

2017
平成29年

4 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン)トラック&フィールド種目参加標準突破者一覧	166
2017年シーズンの抱負(強化委員会)	167
2016-2017ダイヤモンドアスリート報告-リーダーシッププログラム終了報告- (ダイヤモンドアスリートコーディネーター 遠藤俊典(青山学院大学))	171
2016年度全国競技運営責任者会議報告(競技運営委員会)	172
2016年度全国自転車計測員会議報告(施設用器具委員会)	174
JAAF公認コーチ養成講習会 専門科目講習会報告(普及育成委員会 森健一)	176
第21回JAAFコーチング・クリニック(ジャンプス・カンファレンス)報告(普及育成委員会 森健一)	177
2016数字で見る陸上競技Vol.4 都道府県別高校生陸上競技部員割合	178
大会観戦ガイド	179
陸協NEWS	180
事務局からのお知らせ	182

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

第16回世界陸上競技選手権大会(2017 / ロンドン) トラック&フィールド種目参加標準突破者一覧

【男子】

2017年2月27日時点

種目	記録	選手	所属
10000m	27.44.39	村山 紘太	旭化成
十種競技	8180	中村 明彦	スズキ浜松AC
十種競技	8160	右代 啓祐	スズキ浜松AC

【女子】

種目	記録	選手	所属
5000m	15.18.08	木村 友香	ユニバーサルエンターテインメント
5000m	15.21.31	森田 香織	パナソニック
10000m	31.18.16	鈴木亜由子	日本郵政グループ
10000m	31.22.92	関根 花観	日本郵政グループ
10000m	31.35.76	高島 由香	資生堂
10000m	31.38.80	上原 美幸	第一生命グループ
10000m	31.48.24	石井 寿美	ヤマダ電機
10000m	31.55.26	松崎 璃子	積水化学
10000m	31.57.92	中村 萌乃	ユニバーサルエンターテインメント
10000m	31.58.46	棟久 由貴	東京農業大学
10000m	31.58.71	安藤 友香	スズキ浜松AC
10000m	31.59.12	松田 瑞生	ダイハツ
10000m	31.59.72	加藤 岬	九電工
10000m	32.05.05	清田 真央	スズキ浜松AC
10000m	32.07.56	井上 藍	ノーリツ
10000m	32.07.77	西原 加純	ヤマダ電機
10000m	32.14.40	宮田佳菜代	ユタカ技研



村山 紘太 (旭化成)



中村 明彦 (スズキ浜松AC)



木村 友香 (ユニバーサルエンターテインメント)



鈴木亜由子 (日本郵政グループ)

2017年シーズンの抱負

強化委員会

強化委員長・トラック&フィールド/競歩 ディレクター (ゴールド・メダルターゲット)

伊東 浩司

【新強化委員会体制の経緯】

2013年9月に2020年の夏季オリンピック競技大会の開催地が東京に決定し、その2か月後には「2020東京オリンピック強化普及特別対策プロジェクトチーム」を立ち上げ、東京五輪における好成績、またレガシーとして多くのものを残すことができるように、多角的な検討を行ってきました。その後、2014年12月に「2020年東京オリンピックプロジェクトチーム(以下、2020PT)」を正式に立ち上げて組織化しました。2020PTでは、「強化組織の抜本的改革」「種目、競技トランスファーの促進」「強化情報戦略の強化と拡充」「科学サポートの徹底的な活用」「指導者養成システムの確立」を改革案として実行してきました。そして、2015年北京の世界選手権後、同年9月に強化推進本部、その後、将来構想ワーキングが出来ました。この間に戦ったリオデジャネイロオリンピックでは、メダル2は獲得したものの当初の達成目標には届かず、2020PTからの改革案を加速化することが必須となりました。2016年11月、これまでの強化推進本部や将来構想ワーキングから提案された議論を反映した新しい強化組織を改編し2020年を向かえることとなりました。

【2020年に向けた対策】

現実的な強化目標としては、長く日本の陸上競技を支えてきた男女のマラソン、古くから地道な強化が進められてきた競歩、日本のスポーツ文化(少年野球)に裏付けられて豊富にタレントが供給されるやり投げ、技術性が高くお家芸といわれた棒高跳、歩幅が規定されるハードル種目(特に400mH)などを中心にメダル5個、入賞7を目標としております。リオデジャネイロオリンピックにおいて銀メダルを獲得した男子4×100mリレーチームにおいては、前回以上の成績を目指しております。

新強化体制の特徴は、連盟主導の強化方法の改編にあります(組織図参照)。今回の新体制では、従来のブロック制から種目制に移行し、各種目にオリンピック強化コーチを配置し種目ごとに強化方法が展開されることになりました。重点的な強化の枠組みをトラック&フィールド/競歩、長距離・マラソン、強化育成

という3つの柱を強化の枠組みとしました。各柱の中において、メダル獲得、入賞、世界レベルへの強化という階層を設定し、重点的な強化を展開いたします。「マラソン強化戦略プロジェクト」を発足し、瀬古利彦氏をプロジェクトリーダーとして、重点的な強化を行うことになりました。また、2020年以降の強化を考えた場合、現在も成果が出ている強化育成については、従来の機能を継承した組織となり、U20やダイヤモンドアスリートを中心としたプログラムの展開や2024年も視野に入れた対策を講じる必要性があります。

【2017年シーズンに向けて】

2017年は、世界陸上ロンドン大会が開催されます。この大会は2020年東京五輪をターゲットにした選手団の編成を考えております。できるだけ多くの競技者に標準記録を突破することが期待されますが、同様に記録を持っている選手ができるだけ海外で活躍し、世界で戦える選手に成長していくことを期待しています。

ゴールドターゲット・メダルターゲットの強化については、各オリンピックコーチの役割が大きくなり、2017年シーズンは種目により戦略が異なります。男子の100m、200m、4×100mRについては、リオ五輪の銀メダルの再現ができるように、選手個々を大切にしていきながら、日本チームの最大の武器である「バトンパス」を継続したいと思います。男女の競歩については、従来通りの男子強化も図りながら、女子50kmも視野に入れた強化策を展開いたします。男子400mH、男子棒高跳、男女やり投げはどのような環境下でも安定したパフォーマンスが発揮できていることを期待しています。TOP8のリレーは、決勝進出を目標に挙げ、個々に目標記録を設定し、この力を積み重ねていくことが重要であります。

他競技団体や国の方向性が「選択と集中」を求めている時代になっており、トップ選手に特化した重点サポートを実施し、成果を出しているという事実は明らかです。陸上競技を考えた場合、2019年1月1日から標準記録の有効期限の種目もあることから、残された時間は極めて少なく、現状の競技力を鑑み強化の枠組みを展開することとしました。その点は、ご関係の皆様にも十分ご理解いただき、陸上競技に関わる全ての

方々で2020年をむかえていきたいと考えております。お力添えの程、よろしく願いいたします。

トラック&フィールド／競歩 ディレクター (TOP8、ワールドチャレンジ) 山崎 一彦

【TOP8ターゲットの強化方針と目標】

メダルターゲットは東京オリンピックにおいてメダルが期待されている種目である。目標が達成できた時、陸上競技関係者のみならず、多くのスポーツファンへ感動を与えることができるだろう。そして、現代のオリンピックではメダル獲得が必須の中で選択と集中をするべきカテゴリーである。

現段階のTOP 8における種目は、オリンピックおよび世界選手権において参加レベルである。日本スポーツ界から見れば強化対象でないことを認識しながら、日本陸連または日本陸上関係者として、限られた予算の中でまずはコーチ自身が世界レベルに到達するために考えを改めることが重要である。競技者は3年後の東京オリンピックでは入賞レベルに到達を目指す。あるいはトラック種目では、いかに多くの準決勝進出者を出せるか、フィールド種目では、いかに多くの決勝進出者を出すことができるかが鍵となるだろう。このカテゴリーが“善戦”するかしないかで、日本陸上競技界のスタンスおよびレベルが決まり、陸上競技関係者から見た真の成功が問われることになる。いわば日本陸上界の底上げをするための目標・方針は以下の通りである。

1. 東京オリンピックで各種目8位入賞する。
2. IAAFダイヤモンドリーグに参加できるレベルを多く輩出し、記録だけでなく勝負に強い競技者を養成する。
3. 自己記録と世界の順位を比較検討するだけでなく、海外競技者と同一競技化に出場した場合、勝敗が明確となりライバルが明確になるようにしておく。
4. 競技者およびコーチは、海外のトレーニングシステムおよび競技会システムを学び、共に海外活動を積極的に行えるようにする。
5. 強化ターゲット競技者は明確にし、オリンピック強化コーチは継続的に競技者の状況を把握し、指導およびマネージメントできる範囲の人選をする。
6. まずパーソナルコーチが常に強化できるような環境を整える自己努力をし、明確なコンセプトが事前にはない合宿は陸連としては行わない。

このように、従来多くの可能性のある日本上位者を招集して年数回の合宿を行うことが強化であるという考えではなく、オリンピック強化コーチは、選択と

集中をして、より継続的に強化ができるようにしていく。本年は記録の面では派遣設定記録Aを突破すること。ロンドンで開催される世界選手権で男子走高跳において8位入賞、800m、110mHは準決勝進出以上、男女3000mSCは複数名の出場、男子走幅跳、三段跳では複数名出場と決勝ラウンド進出、10種競技は入賞圏内のベスト10以上を目標にしていく。

ワールドチャレンジに関しては、実業団、学連および地域陸協との連携を行いながら進めていく。目標としては、本年開催されるアジア選手権、18年のアジア競技大会でのメダル圏内を目指す。陸連としては、アジア地域での競技会派遣について財政的支援をしていく。競技者および指導者は、日本チャンピオンが最大目標ではなく、アジアチャンピオンを目標にしていく目線とする。そのため、アジア選手権前のアジアGP、アジア選手権後のアジア諸国で行われる競技会等の積極的な参戦ができるトレーニングサイクルにしていくことを推奨する。

本年はアジア選手権を最重要競技会とする。アジアチャンピオンとなった場合は、世界選手権参加標準記録と同等の価値とし、世界選手権参加要項に従い、世界へつながる活路を見出せるようにしていく。

マラソン強化戦略プロジェクトリーダー

瀬古 利彦

この度はマラソン強化戦略プロジェクトリーダーという大役を引き受けさせて頂くことになりました。正直なところ私に出来るだろうかと思いましたが、日本マラソン界の復活と、3年半後の東京オリンピック、そして今までお世話になった陸上界の為にお役に立てればと決断した次第です。

リオデジャネイロオリンピックでは男女とも入賞を逃しました。男子で15年、女子では12年間日本記録が破られていません。このままでは日本マラソン界の輝かしい歴史を築いてきた諸先輩や応援して頂いているファンの方々に申し訳ありません。世界に通用することは簡単ではありませんが、日本陸上界が英知を結集し、協力して東京オリンピックに臨む覚悟です。

では何をすれば良いのでしょうか。日本のマラソンは距離を走ることで世界トップクラスを維持してきました。しかし、いつの間にか「そんな練習は古い」と言われるようになってしまいました。もう一度原点に戻り、超長距離走、つまり長時間をゆっくり走り富士山の裾野のようなびくともしない体力をつけ、脚づくりをしていくように説いていきたいと思っています。

東京オリンピックは暑いです。過酷な条件が想定さ

れます。それに耐えうる気力も必要です。しかし今からなら間に合います。レッツトレーニング！

長距離マラソン強化ディレクター

河野 匡

昨年11月より長距離マラソン強化ディレクターを拝命しました。伊東強化委員長のもと東京オリンピックにおいて国民の期待に応える成果を出せるように尽力していきます。

今回の強化体制において、男女マラソン及び女子長距離はメダルターゲット種目、男子長距離はTOP 8ターゲット種目にカテゴライズされました。予算もカテゴリーに応じて配分されるため、強化策の選択と集中が必要となります。常に「東京オリンピックにおいて目標達成するための施策を実行する。」を念頭において現状把握を確実にし、効果的に効率よく展開していきたいと考えています。

そのような背景の中、2017年長距離・マラソンの取り組みは以下のような方向性で進めていきます。

【長距離】

長距離においては、オリンピック、世界陸上を分析した結果、男女を通じて①大舞台でベストパフォーマンスが発揮できない。②ペース変化、ラストスパートへの対応力不足。③海外レースの経験不足。という課題が見えてきました。これを2020年までに克服するために、今年度は「3000mの走力アップ」をテーマに取り組みます。具体的には、男子は7分50秒突破、女子は8分44秒40の日本記録挑戦を目標に、ナショナルトレーニングセンター、JISS、飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアの活用を医科学と連携しながら積極的に行い、スピード強化を図っていきます。男子は1500m、5000mの上位選手をピックアップし、企業所属のケニア、エチオピア選手との合同合宿、女子は若手を中心に2泊3日の研修合宿を年4回～5回実施して行く予定です。

また、ロンドン世界陸上への準備として女子長距離は代表選手によるサンモリッツ（スイス）での事前合宿、来春にはアルバカーキ（アメリカ）高地トレーニング合宿も計画しています。この内容については関係者に既報済みですが、改めて選手、指導者にはこの場で情報共有させていただきます。ご承知おきください。

【マラソン】

東京オリンピックでマラソンに求められる成績は、「メダル獲得」しかないと感じております。マラソ

ンの結果が陸上競技の盛り上がりや左右する事は前回の東京オリンピックから見ても間違いありません。しかしここ3大会のオリンピックの結果からは厳しい現実であることは周知の事実です。

「我々は何をすればメダルに届くのか？日本マラソン界が戦える状態にどうすれば準備できるのか？」を論点に様々な角度から分析を行い2020年までのロードマップを作成しております。まだ検討段階ではありますが、発刊される頃には具体案をお示しできる状況になっていると思います。

強化期間が実質3年半しか残されていない中で、すべてを網羅した強化策を立案することは不可能です。目的を特化した形で進めなければ成果に繋がらないと考えています。強化委員会と選手、コーチとのコミュニケーションが重要になりますので、疑問、不明点がありましたら私をはじめ強化コーチ・スタッフに連絡ください。宜しくお願い致します。

強化育成ディレクター

麻場 一徳

2020東京オリンピックへ向けて刷新された強化体制におけるシニアカテゴリーに、より多くの競技者を引き上げることが強化育成の重要な課題である。これまでの数年間において、強化育成カテゴリーの国際大会で活躍した競技者がシニアの国際大会でも実績を収めていることから、強化育成カテゴリーにおける国際大会派遣を基盤とした強化育成方針を引き続き推進していく。昨年度との大きな変更点は、U19とU23オリンピック育成競技者の区分を、U20オリンピック育成競技者に統合したところである。このことによって、高校卒業から大学1年生（社会人1年）の連続性を強く意図するとともに、U20世界選手権を試金石としてその先にあるシニアの国際大会への意識付けを強化することを目指している。さらに、ダイヤモンドアスリートとオリンピック育成競技者を両輪とした強化育成をより充実するために、強化育成に関わる指導者の思考やコーチングスキルの質向上を目的とした取り組みを拡充する。下記に、具体的な方針と2017シーズンの目標をまとめた。

【強化育成方針】

1. 2点強化育成体制の充実

・フラッグシップモデルとなるダイヤモンドアスリートプログラムとU20オリンピック育成競技者プログラムの差別化と関連付けをそれぞれ強化することによって、強化育成カテゴリーのターゲッ

トに合わせた育成を展開する

- ・陸上競技における育成方法を内外に注目させる
2. 指導者における中長期的指導による理解
- ・競技者の育成からトップ競技者強化までの全体像を捉えられるようにする
 - ・競技者に対してトレーニング方法の精選化のみに終始せず、何事にも興味を示し広い視野を持てるようにする。
3. 国際的視野を持つ指導者、競技者の育成
- ・国内競技会中心ではなく、有望な指導者、競技者はできるだけ若年層で海外の試合や合宿を経験できるようにする

でも世界で活躍できるポジティブな意識を創作する。東京オリンピックでも活躍できる年齢層となる可能性も高いことから、U18世界選手権を契機に競技者の世界観を広げる意識付けをしていく。ジュニア期の育成に配慮して、将来性を見込んだ競技者を派遣し、シニア競技者強化につなげられるようにする。

2. アジアユース選手権について

- ・戦略的な国際競技会派遣に配慮するため、アジアユース選手権では個人種目の派遣を重視し、戦略的に精査した派遣とする。シニア世代において世界で活躍することを視野に、優秀な競技者は試合過多にならないように配慮する。

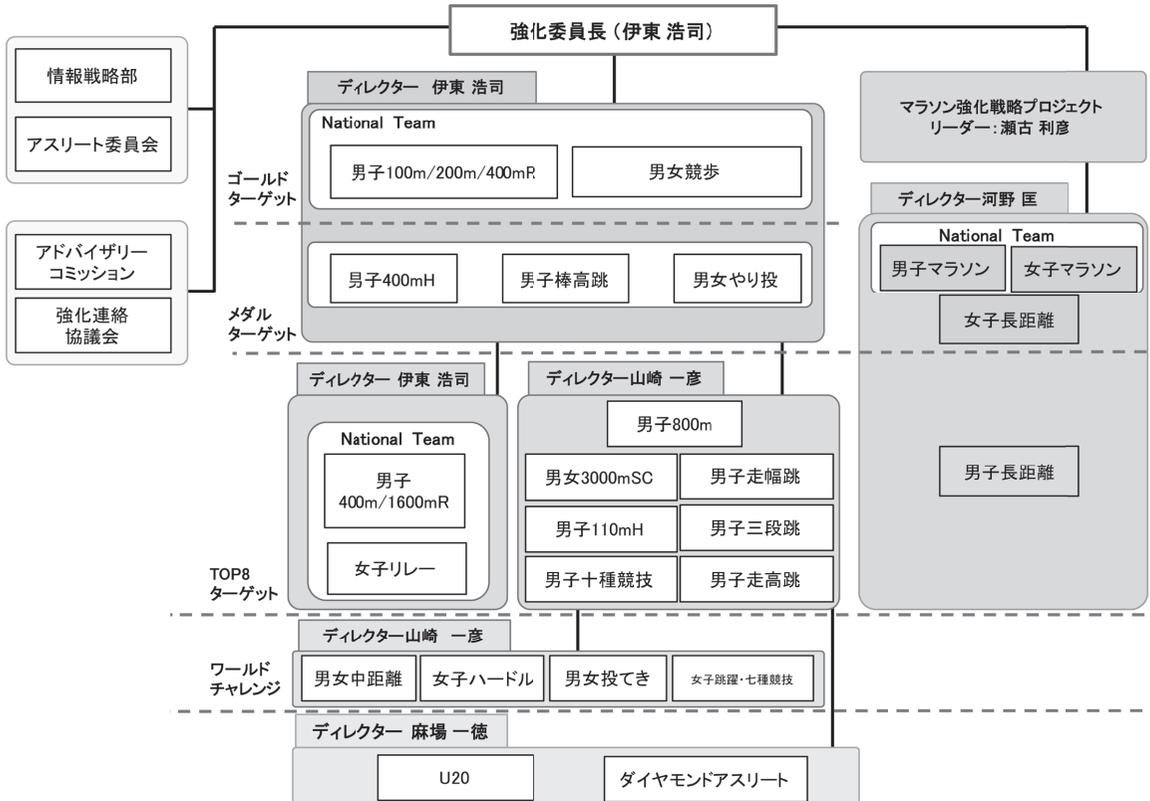
【2017年シーズンの目標】

1. U18世界選手権について

- ・2017年度U18世界選手権（ナイロビ/ケニア）でU18カテゴリーでの世界大会は最後となる。前回大会（カリ/コロンビア）と同等メダル数5個以上を目標とし、過去最高成績を取めることを目指す。入賞数よりもメダルにこだわり、ジュニア層

以上のような方針および目標を実現させるためには、全国高体連および中体連との連携・協力・連絡を強化することが必要不可欠になる。そのために、競技団体内外に育成システムに関する情報を共有し、本連盟が理想とする強化育成システムを浸透させていくことが重要であると考えられる。

公益財団法人日本陸上競技連盟 強化委員会組織図



2016-2017ダイヤモンドアスリート報告—リーダーシッププログラム終了報告—

ダイヤモンドアスリートコーディネーター 遠藤俊典（青山学院大学）

ダイヤモンドアスリート（DA）は、東京オリンピックを契機に中・長期的にエリートを育成するために選ばれた競技者です。選出された競技者には、陸上競技を通じて競技的にももちろんのこと、豊かな人間性を持つ国際人となることによって、今後の日本および国際社会の発展に寄与することが求められています。これらのことを達成するために、ダイヤモンドアスリートプログラムでは、全4回からなる「リーダーシッププログラム」を必修として位置づけています。このリーダーシッププログラムは、東京マラソン財団の支援を受け、為末大氏監修のもと実施してきました。また、2016-2017からは、各回のプログラムにアスリート委員会（AA）の協力を得てベテラン勢が参加することによって、DAとの繋がりを強化する試みもスタートしています。本稿では、先日終了した全4回のプログラムの構成について報告します。なお、各回の詳細は、日本陸上競技連盟ホームページ（<http://www.jaaf.or.jp/diamond/>）JAAFメディアチーム取材・構成）に報告されていますので、ぜひ本稿と併せてご覧ください。

第1回 講師：小林 りん氏（インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢）

テーマ：国際的なリーダーシップの育て方

DA参加者：山下潤・犬塚渉・北口榛花・池川博史・橋岡優輝・江島雅紀・長麻尋

第2回 講師：藤代 裕之氏（法政大学社会学部メディア社会学科准教授）

テーマ：ソーシャルメディア時代のリテラシー

DA参加者：山下潤・犬塚渉・橋岡優輝・長麻尋

AA参加者：澤野大地、藤光謙司

第3回 講師：堀江 貴文氏

テーマ：“グローバルコミュニケーション”向上

DA参加者：山下潤・犬塚渉・橋岡優輝・長麻尋

AA参加者：山本篤、金丸祐三

第4回 講師：坂井 伸一郎氏（株式会社ホープス）

テーマ：ディベートを通して自分自身の選択について考える

DA参加者：山下潤・犬塚渉・北口榛花・橋岡優輝・江島雅紀・長麻尋

AA参加者：高平慎士、久保倉里美、塚原直貴

全4回にわたって行われたリーダーシッププログラムの最終回に全体のまとめを行った為末氏は、ダイヤモンドアスリート

のコンセプトである“国際的なリーダーシップを持ったアスリートを育成する”ことを目指して“競技以外の体験をする”ことによって得られるメリットとして、

- 1) 競技力の向上：いろいろな経験をした選手のほうが、視野が広くて考えがシャープ。若い年代では練習量が大きく影響するのでまだわからないかもしれないが、25-26歳くらいになってくると淘汰されていく選手が出てくることに気づくと思う。
- 2) セーフティーネット：いろいろな人とつながっていると、いざという時に役に立つ。これも、いずれそれを実感する時期が来る。
- 3) 陸上の地位向上：陸上のトップ選手が何を言っているかということが、陸上競技のイメージに大きく影響していて、それが次に入ってくる陸上選手たちの数を決め、さらに、それらがスポンサーからの額を決める。あまり重たく考える必要はないが、みんなが輝くと陸上の価値が輝くのだということはわかっておいたほうがいい。
- 4) 人生に有益：今のみんなのバリューは高い状況にある。そんな状況のときに、なるべくたくさんさんのことを吸収して、現役中にも引退後にもプラスになるようにしたほうがいい。

ことを示すとともに、「リーダーシップの本質は、“自分が目指すゴールの方向に、どうすればコントロールできるか”をやっていくこと。そのときには、他者に対してだけでなく、自分の振る舞いも含めて、どうすれば自分の思うようにもっていきやすいのかを考えてよう。例えば、今日、みんながここでいろいろな質問をしたことによって、先輩たちとつながりが生まれてメンターができた。これがさっき言った“セーフティーネット”。そんな感じで、徐々に自分の環境を整備しながら、競技をやっていくうえで一番いい環境をつくってほしい。これを（人任せにせず）自分自身でつくっていくようにすると、いい競技生活が送っていかれると思う」と話し、4回のリーダーシッププログラムを終了した（以上、前述のHPより抜粋：取材・構成：児玉育美/JAAFメディアチーム）。

本プログラムの最終的な成果は、DAたちの将来の実績によって判断されていくものと考えられます。陸上界から真のエリートを育成・輩出していくために、今後も引き続き、DAプログラムの充実に努めるとともに、その精度・確度の向上を目指していきたいと考えています。ここに改めて、本活動にご支援・ご協力いただいている皆様へ感謝申し上げます。



第1回リーダーシッププログラム 小林氏



第2回リーダーシッププログラム 藤代氏



第3回リーダーシッププログラム 堀江氏



第4回リーダーシッププログラム 坂井氏

2016年度全国競技運営責任者会議報告

競技運営委員会

標記の会議を2017年2月18日(土)、19日(日)、味の素ナショナルトレーニングセンターで開催した。以下会議の概要を報告する。

第1日目(2月18日)

開会あいさつ 尾縣 貢 専務理事

- ・現在の陸上界が抱えている課題点は2つある。1つは審判員の高齢化、審判員数の減少、もう1つは2020年東京オリンピック、パラリンピックに向けての審判員育成である。
- ・今後の国際大会を誘致する上での高い評価にもつながるので、オリンピックを成功させるためにも皆様の協力をいただきたい。

鈴木 一弘 理事・競技運営委員長

- ・昨年リオでのオリンピックの反省を生かして2020年の東京での大会を成功させるべく本委員会でも準備を進めている。
- ・ルールの修改正についても国際化に向けて細かなチェックをした。盛りだくさんの内容であるが、2日間有効な会議にしていきたい。

事務連絡 山田 峰生 審判部幹事

- ・資料販売について、駐車場について。

競技会実施報告

- ・各道県の報告書が資料にされており、各自確認。

2017年度～2020年度スポンサーについて

肥田 堃 事務局員

- ・青山商事株式会社(株)が2017～2020年度のオフィシャルサプライヤーとして国際大会参加選手・役員オフィシャルスーツを提供していただくこととなった。それに伴い、競技役員ウェアについても斡旋していただけることとなった。

国際競技会報告 関 幸生 国際専任部長

- ・ジュニア層への競歩ピットレーンの導入、U20世界選手権トラブル事例、オリンピック・パラリンピックの状況、ITOの任務について、ビデオ審判長について、EDMの確認作業について、ゼロコントロールテストについて説明。

オリンピック・TOKYO2020に向けての競技会運営・審判育成 鈴木 一弘 競技運営委員長(オリンピックの運営について)

- ・ウォーミングアップエリア、投てき練習場、ファインナルコールルーム、表彰待機場所の状況。
- ・競技場所、競技施設の説明、電子機器の業者の操作、メディア用施設、ビデオルームの設備の説明。
- ・競技運営のさまざまな状況についての説明。

(パラリンピックの特微的運営)

- ・オリンピックからパラリンピックへ転換作業(ロゴ

の張り替え、スロープの設置、広告ボードの設置など)がある。競技施設はパラを念頭に設計する方向。

(その他)

- ・2017年にJTO(1期～5期)研修、2018年6月U20アジア選手権(岐阜)全国派遣審判員対象の研修(未定)、サテライト形式での研修を検討。
- ・IAAF TOECS LEVEL1(NTO)講習への挑戦も検討中。

2017年度競技規則修改正提案

黒澤 達郎 審判部委員

- ・162条6、スタート〔注意〕について、180条、フィールド競技、230条競歩、第265条日本記録について、U18日本記録、U18室内日本記録を設置。
- ・第144条4 競技者に対する助力について、視覚障害者がトラック競技に参加する場合についても伴走者は助力とみなさないとする。また、聴覚障害者のスタート補助のライトは、助力とみなさない。
- ・第149条、記録の有効性について、いわゆるストリート陸上についても普及・発展の観点から認める。

競技会における広告および展示物に関する規程修改正

関根 春幸 競技部長

- ・チーム名とチーム名ロゴに関して、ラベリング規程(ユニフォームは国際規程)適用のレース、競技役員衣類に関して、ナンバーカードの大きさについて説明。

施設用器具委員会報告

高木 良郎 施設用器具副委員長

- ・検定降格の主な理由、第149条の変更に伴う規程、細則の変更、規則修改定について説明。

JTOs活動総括

中島 剛 審判部副部長

- ・派遣報告、セミナー報告、JTO試験の結果について説明。

ハンドブック編集報告

岩崎 義治 審判部長

- ・ハンドブック編集方針について。

1日目 質疑応答

Q(石川：中) U20ハードルの記録が変わるのか？

A(杉本) 不利な条件で行ったものについては、それを認める。変更はない。

事務連絡

山田 峰生 審判部幹事

明日の連絡・集合時間(8:30)集合場所について。名札の扱いについて。短冊について。

第2日目(2月19日)

(審判部会)

公認審判員昇格審査結果について

梶田 茂 審判部幹事

- ・259名中256名が昇格候補。審判講習会はできれば

3月中、遅くても4~5月までには実施頂きたい。

競技運営上の改良点

スタートやり直しにおける出発係の対処行動とアナウンスの方法

関 隆史 審判部委員
片岡 裕介 審判部委員

(スタートやり直しの対処手順の変更: 関委員)

・不正スタートではなく注意の場合、従来は当該選手に口頭で注意し、同時に個人にもグリーンカードを示していたが、グリーンカードは当該選手ではなく全体に対して示すこととする。

(アナウンス側の対応: 片岡)

・スタートやり直しの場合、何が起きたのかをアナウンスで知らせるようにしている。特定選手へのカード提示はないので、レーンのアナウンスはせず、出発係の全体へのカード提示に合わせてアナウンスする。「不正スタートではない」ことを冒頭に入れたうえでコメントするとよい。

トラックレースの次ラウンド進出条件、やり投着地側旗なしの運営方法

岩崎 義治 審判部長

・昨年、1/1000で着差判定することとした。レーンに余裕があっても「ランキング8」が原則。
・国際的な運用に合わせて、旗あげは投てき地点のみとし、着地地点の旗はなくすこととしたい。

ルール解釈の変更など(不正スタート、跳躍競技者のビブス、その他)

鈴木 一弘 競技運営委員長

・不正スタートの解釈(第162条6)、跳躍競技(長さの競技)のビブスの枚数、盗撮防止対策で注意すべきことなどを説明し、意見交換を行った。

(意見及び質疑)

Q(宮城: 鹿又) 夏にハーフパンツを採用しているところは? 挙手: 半数以上。

A(岩崎) 次回のハンドブックにも追記している。

I(鈴木) 医事委員会から、役員のサングラス着用も推奨している。色が濃過ぎるものは薄い色で対応いただく等の配慮もお願いしたい。

(競技部会)

あいさつ 関根 春幸 競技部長

・本日の議題については、6つ提示させていただいている

事務連絡 赤峰 俊彦 競技部幹事

・資料の追加販売、S級昇格審査の資料送付。

公認競技会開催申請 井上 博行 競技部委員

・2017年度から都道府県コードを国体方式に統一するため、8県でコードが変わる。懸案であったマスターズの陸連登録について、今年度中の進展を要請した。

記録公認の申請 赤峰 俊彦 競技部幹事

・公認競技会の申請の状況について、申請についての課題について、協力をお願いした。

高橋 克実 陸連分室(ベースボールマガジン社)

・記録の電子申請の経緯について。

・競技会の記録申請の電子化のメリットについて。

・現場での問題点について。

日本記録申請に必要な資料

赤峰 俊彦 競技部幹事

・2016年日本記録誕生について報告。

・U18日本記録について、種目を発表した。

科学計測機器の点検記録 関根 春幸 競技部長

・科学計測機器の点検について、投てき競技で使用される科学計測器について、機器の不調の場合について説明。

海外競技会への参加申請 関根 春幸 競技部長

・ルールブックの14ページに国際競技会の参加許可について記載があるので、確認してほしい。

公認道路競走競技会の注意事項

関根 春幸 競技部長

・ロードレースの登録者の部の所属団体や記録等、業者としっかりと打ち合わせをし、確認してほしい。業者任せにしないように。登録者とそうでないランナーとの競技成績の分けをしっかりとすることを願いたい。

(その他) 岩脇 充司 競技部委員

・略称の変更についての連絡。

(全体会) 分科会報告

岩崎 義治 審判部長・関根 春幸 競技部長

・両部会での確認事項について説明。

全体質疑応答

Q(徳島: 岸) ナンバーカード改正について、大きさ、字の文字等の再確認。

A(関根) 競技者が識別できれば大きさは問題ない。

コメンテーターより 吉儀 宏 特別委員

・国内ルールについては歴史的な背景があり、それぞれにはそれなりの経緯と主張があるということをご理解いただきたい。

・「修身齊家治國平天下」とは自分の身を修められない者は、家を整えられない、家を整えられないものは国を治められない、国を治められない者は天下に号令できないという戒めである。陸上競技会も同様でオリンピックを成功させるためには国の競技会→都道府県の競技会→自分自身の研鑽が必要である。とにかく足元を固めていただきたい。

事務連絡 梶田 茂 審判部幹事

・資料配布について、昼食の準備、短冊の配布、名札のプレート返却について。

閉会あいさつ 鈴木 一弘 理事・競技運営委員長

・審判員の高齢化に伴うアイデアを聞かせてほしい。そろそろ見直しも考えている。

・2020年に向けて皆様のご協力が必要であるので、よろしく願いたい。

2016年度全国自転車計測員会議報告

施設用器具委員会

日時 2017年2月11日(土)、12日(日)

場所 江東区夢の島競技場(1日目)

江東区文化センター(2日目)

参加者 日本陸上競技連盟事務局 関 幸生 井上博友 浅田大吾 尾添奈美子
施設用器具委員会 委員11名 全国自転車計測員56名

施設用器具委員会では、公認のマラソンコースを自転車で計測・検定する計測員を一同に会した研修を、2年に1度「全国自転車計測員会議」として実施している。国内の計測員を都道府県陸協に1名配置を義務付け、この会議で研鑽を積んでいる。国際級の計測員も現在A級4名B級6名おり、アジアでも最高の計測技術を誇っている。以下はこの会議の概要である。

【第1日 2017年2月11日(土)】

会場：江東区夢の島競技場・会議室

～新規計測員のための特別研修～ 司会：飯村委員

1. 自転車による道路コース計測の基本(福島委員)

(1) 自転車計測の基本的な知識

1. マラソンコース検定について
2. カリブレーションコースについて
ア、カリブレーションコースの設定について
イ、カリブレーションの計測
ウ、カリブレーションの図面・略図の作成
鋏を用意し打ち込んだらそのポイント図、略図を作成する。

(2) 正確な計測について

最短距離を計測するので、前後を車両でカバーするようにする。5kgごとのポイントでカウントを取る。コース取りはワイヤー計測と同じ。

(3) 計測と計測結果(計算)の報告について

2. 公認道路コース計測の各種事例(梶原計測員)

(1) 大会当日の計測の留意点

- ・事前準備の重要性
- ・カリブレーションコースの選定
- ・車両関係の確認
- ・コースの下見

(2) 大会日以外での計測の留意点

- ・夜間早朝の計測の準備
- ・カウンターの管理・自転車の特徴
- ・当日準備について
- ・その他

パソコンに頼りすぎず、手計算も大切。ミスも見つけやすい。

- ・耐水用紙の確認
- ・カウントを落とす地点のテープの貼り方

・シャッター等で通れない場合の計測の仕方
～会議～

◇開会のことば 高木副委員長

◇あいさつ 平塚委員長

資料P4～P5を参照しマラソンコース検定の歴史を確認してください。今回は3名の新規計測員がいる。この会議を終了すると日本には56名の自転車計測員がいることになる。お互い情報を交換し、研修を深めていただきたい。

1. 実技 夢の島競技場及び周辺

5つの班に分かれて、カリブレーションコース(200m)の作成、カリブレーションの実施、競技場のコース計測の実施、距離計算を各班A級B級の計測員が講師となり実技を行った。

2. IAAFの計測データ(因計測員)

- ・コース検定申請書について
- ・コース経路図について

国内は日本語でも可。スタート・フィニッシュの拡大図・ポイント図も必要。

- ・計測のまとめ
- ・報告書に関する英語表現
- ・報告書作成に関して6つの注意

できるだけ簡単に、誰にでもわかりやすく、既存の英文を活用して、スペルチェックをパソコンで、日本語で考えてから、計測後できるだけすぐに作成するとよい。

【第2日 2017年2月12日(日)】

会場：江東区文化センター研修室4.5

1. 自転車計測員の心構え(松川計測員)

心・技・体・書が必要

「心」

1. 計測員は「職人」である。ABC関係なく成長していくことが大切。
2. 申請者と一緒にコースを作る

「技」

1. カリブレーションコースを造る・走る技術
2. コース取りの技術
3. 自転車の扱い・整備に慣れる
4. チームリーダーの技術
5. 失敗から学ぶ

「体」

1. 体力をつける
10kmを走りきることができる体力
2. いつでも計測できる状態に
急な計測が入ることもある。

「書」

1. 事前調査と計画
 2. 報告書類を作る
- ## 2. 自転車計測の全般（平塚委員長）

（1）申請の手順について

- ①競走路は公認競技会を開催する場合に申請できる
- ②競走路の名前は簡単明瞭なものとする
- ③公認競走路でなければ、IAAF認証の申請はできない
- ④公認競技会を開催しない競走路は公認の継続申請はできない。

- （2）自転車計測の計測と対策
- （3）計測と計算について
- （4）距離の補正
- （5）報告書の作成
- （6）ポイント修正
- （7）講評

3. 自転車計測の実際（苅込委員）

1. カリブレーションコース作成に関する留意点

（1）カリブレーションコースの選定

- ①スタート地点及びフィニッシュ地点に近い場所を選定する。
- ②直線で平坦であること
- ③安全性の確保
- ④照度の確保

（2）カリブレーションコースの作成

昨日の実技の通りに作成する。

2. コースの下見に関する留意点

- （1）コースの事前把握
- （2）コースの情報収集

3. 計測に関する留意点

（1）カリブレーション

- ①ウォーミングアップ
しっかりしておく。早朝の場合が多い。
- ②プレカリブレーション・ポストカリブレーション
数字にばらつきがあれば測り直す。

（2）コース取りの留意点

- ①計測の流れ
 - ②コース取りの重要性
4. 危機管理について
 5. ポイント修正及び講評に関する留意事項

4. 研修報告

2011年、2013年北京で行われた研修セミナーの報告を北海道・大聖計測員、鳥取・佐々木計測員より行った。日本の計測技術の精度が高いことが確認できた。

5. IAAF / AIMS 参考事項（事務局関氏）

- （1）IAAF規則に規定される自転車計測員がすべきこと
- （2）自転車計測による計測とIAAF承認書が絶対条件のレース
- （3）自転車計測員の立ち合いが絶対条件のレース
- （4）IAAFへの報告書提出から公認証明書発行までの流れ
- （5）英語での計測報告書記入にあたって注意したいこと
- （6）B級A級に昇格するための条件
たくさん計測を行い、たくさん報告書を作成してください。

◇修了証の授与

平塚委員長より代表で鹿児島・内山計測員に授与

◇閉会あいさつ（平塚委員長）

2日間お疲れ様でした。地元に戻ってマラソンコースの計測にご尽力いただきたい。以上で閉会します。



JAAF公認コーチ養成講習会 専門科目講習会報告

普及育成委員会 森 健一

JAAF公認コーチ養成講習会を2016年12月23日～26日の4日間の日程で、味の素ナショナルトレーニングセンターを会場にして開催した。公認コーチ養成の目的は、国内トップレベルの競技者の指導・育成・強化にあたる指導者を養成することである。受講資格は各都道府県陸協、及び日本陸連から推薦を受けた者に限られ、本年は都道府県陸協で強化担当を務める中学、高校や大学の教員、現役を引退したアスリート、実業団所属の指導者など57名が受講した。資格取得には日本体育協会主催の集合研修40時間(他競技と合同)とその他研修152.5時間を受講した上で、当連盟主催の集合研修40時間を受講し、自宅学習20時間を経て試験に合格する必要がある。

講習会は基礎理論と実技に分けて実施した。基礎理論では日本陸連専務理事の尾縣貢氏から2020年東京オリンピック・パラリンピックへ向けた日本陸連の強化方針をベースに選手育成における指導者の重要性および必要性についての講義が行われた。そして、普及育成委員会の小林副委員長からコーチ哲学、コーチングスキルについての講義が行われた。医事委員会の山澤委員長からは、アンチドーピングに関する最新情報についての講義が行われた。また、スポーツ傷害(鳥居 俊氏)および栄養学(田口 素子氏)では、選手の貧血に対する解消法としての鉄剤注射の危険性についての講義が行われた。

グループワークでは選手育成の方策や組織マネジメントの整備を中心としたテーマでグループ毎にディスカッションを行い、意見をポスターにまとめ、プレゼンテーションを行った。

実技では、短距離、ハードル、競歩、跳躍、投てきと幅広く種目別指導が行われた。また、昨年度に引き続き、実技のなかに種目別指導演習を導入した。指導演習に先立ち、コーチングにおいて必要な、コーチ哲学およびスキルを講義によって学習しており、その実践の場が指導演習である。内容としては、指導現場において主に指導している専門種目の指導案を作成してもらい、それに沿って指導実践を行



指導実践の様子

うというものである。そして、その指導実践の評価およびフィードバックを国際陸連レベルIコーチの資格を持つ講師によって行ない、受講生の指導方法を深めるものである。この指導演習を取り入れた理由として、国際基準に則った指導法を学ぶこと、どの年代においても、どの指導者においても一貫指導がなされるようにすることが挙げられる。

受講生からの声として、いろんな種目の指導方法を体験できてよかった、指導についてのポイントがわかってよかったといった感想や意見が多く寄せられた。指導実践の進め方等をさらに検討して、来年度以降も、コーチングスキルの演習としての指導者同士が積極的に意見交換できる場を設けていきたい。

ジュニア世代の選手の普及育成および一貫教育を図っていくなかで、公認資格取得の重要性がより一層高まってくる。今後も、各都道府県陸協から積極的に受講生の推薦をしていただくことを希望する。今後も、公認資格取得の啓蒙活動を積極的に行い、各都道府県陸協と連携をして2020年東京オリンピック・パラリンピック、またその先を見据え、より多くの公認コーチを養成していきたい。一方で資格取得者が資格を失効することがないように資格更新の義務研修の情報発信等の取り組みを行い、公認資格取得者の指導力向上の支援に努めて参りたいと考えている。

2016年度JAAF公認コーチ養成講習会合格者一覧

山崎 圭三	後小路正人
君野 貴弘	鈴木 修平
井上 明浩	奥村 浩司
馬場 大	池田 義和
坂入 達哉	出口 義人
新井 和社	八木 貴志
岡本 洋	小早川 嵩
上田 健一	望月 政和
齊藤 太郎	福見 秀樹
北浦 弘之	中馬 義宗
渡邊 祐哉	吉成 俊
宮崎 久	太田 健佑
河村 修一	櫻井 重友
中野 敦之	倉井 貴之
小嶋 謙一	真鍋 佑太
武中 将輝	尾上 寿子
中野 真実	岩瀧 一生
片岡 英史	山田 里美
塩月 英樹	今泉 泰治
清水 悠	上田 勝也
田中 暢人	加藤 智明
弓削 貴史	徳淵 克秀
高野 大樹	武田 健太
浅見 公博	逸藤 史晃
井上 陽平	渡邊 顕彦
川井 賢一	佐藤 支
杉浦 伸幸	渡部 泰子
佐藤 弘茂	吉永 一行
池田 祐一	

第21回JAAFコーチング・クリニック(ジャンプス・カンファレンス)報告

普及育成委員会 森 健一

第21回JAAFコーチング・クリニック(ジャンプス・カンファレンス)を2017年1月21日(土)に、味の素ナショナルトレーニングセンターを会場にして開催した。コーチング・クリニックは、全国の指導者に最新の指導に関する情報を提供することを目的としている。参加者は93名であり、JAAF公認コーチ・ジュニアコーチ有資格者、中学・高校・大学・実業団の指導者らであった。講師は、杉林 孝法氏(オリンピック強化コーチ、金沢星稜大学)、藤林 献明氏(オリンピック強化スタッフ、びわこ成蹊スポーツ大学)、小山 宏之氏(日本陸連科学委員会、京都教育大学)にご担当いただいた。今回のコーチング・クリニックは、日本陸連強化委員会にて開催していた「ジャンプス・カンファレンス」と連動して開催された。また、藤林氏が参加されたIAAF High Level Seminarの報告も合わせて行われた。そして、跳躍ブロック強化合宿期間中に開催されたため、現役のトップ選手も参加し、デモンストレーターとしてご協力いただいた。

午前のプログラムは、講義形式で行われ、「TOKYO 2020に向けて」と題し、近年のオリンピックおよび世界選手権のメダル・入賞ラインから男子三段跳の国際大会入賞に向けた目標値について講演いただいた。そして、その目標値達成のために必要な指標の具体的な数値を科学委員会のデータに基づき公表していただき、様々な競技レベルにおける各歩(Hop, Step, Jump)の跳躍距離、助走スピードから考える跳躍距離獲得の条件、三段跳と走幅跳の助走スピードの関係について講演いただいた。また、午後の実技に向けて、三段跳の技術的ポイントの映像を紹介しながら説明が行われた。特に、三段跳における運動課題と曲面構造の理解を深めるために、ランニングホップとスウィング型のバウンディングについての紹介があり、日本国内トップ選手の事例を照らし合わせた説明も行われた。多くのトップ選手も参加していただいたこともあり、直接、選手に質問が行われ、それぞれの選手の主観的な感覚を聞くことができ、貴重な時間を設けることができた。

午後のプログラムは、実技講習であり、午前の講演で紹介された内容を踏まえ、基本ドリル、バウンディングの基礎および三段跳の専門的トレーニングについて紹介いただいた。トップ選手がデモンストレーションすることにより、質の高い見本を提供し

てもらえた。技術的なポイントを適宜、選手に直接指導しながら行われた。特に、助走と跳躍動作の連続性、踏切(接地)の「入り」や「捉え」を重視、スピードを意識したスウィング型のバウンディングに重点が置かれて行われた。

参加者からの質問として、三段跳の記録と助走スピード(100m走の自己記録)との関係や、三段跳の記録と走幅跳の記録の関係、ホップ型あるいはステップ型の選手の特徴、また、それぞれのタイプに対する指導方法などが見受けられた。いずれも、具体的な質問であり指導する選手それぞれによるところが多いが、講師の先生からは科学委員会のデータを中心に具体的な回答があった。また、2017年度からはインターハイにおいて女子三段跳も加わるため、男子選手と女子選手それぞれにおける指導方法の注意点にも注目が集まった。

今回のコーチング・クリニックは、クリニック内容は然ることながら、現役トップ選手が参加・協力してくれてこともあり、非常に盛況であったように思われる。講義において理論的に詳細なデータからの説明を受けた上で、トレーニング方法の実践を目の前で直接、観察できたことは非常に有益であったと思われる。このように普及と強化の連携も軸にしてクリニックを提供していきたいと考える。今後も、コーチング・クリニックでは、指導者育成のために優秀な選手を育成された指導者を講師として、指導法の共有や最新の情報を提供し、指導者の指導力向上の支援に努めてまいりたいと考えている。なお、コーチング・クリニックは、日本体育協会公認スポーツ指導者の義務研修としても位置付けている。JAAF公認コーチ・ジュニアコーチの資格を有する指導者には、ぜひ積極的に参加いただくことを希望する。



2016数字で見る陸上競技 Vol.4 都道府県別高校生陸上競技部員割合

事務局

2016数字で見る陸上競技、4回目の今回は、高校生の陸上競技部員の全高校生生徒数における割合を都道府県別にご紹介します。2015年度の日本陸上競技連盟における高校生登録者を、同年度の高校生生徒数（文部科学省調べ）で割ったものです。

【算出方法】割合（％）＝（高校生陸上登録者数）÷（高校生全生徒数）×100

都道府県名	2015年度高校生陸上登録者数	前年比	前年数	2015年度高校生全生徒数	2015年度割合	2014年度高校生全生徒数	2014年度割合
北海道	4,326	-124	4,450	131,682	3.3%	134,616	3.3%
青森	1,522	-103	1,625	37,409	4.1%	38,266	4.2%
岩手	1,764	16	1,748	35,313	5.0%	35,879	4.9%
宮城	2,603	50	2,553	61,366	4.2%	61,583	4.1%
秋田	1,425	-59	1,484	26,299	5.4%	26,926	5.5%
山形	1,646	10	1,636	31,225	5.3%	31,945	5.1%
福島	2,062	-55	2,117	53,874	3.8%	54,952	3.9%
茨城	2,371	33	2,338	79,077	3.0%	79,089	3.0%
栃木	1,465	-42	1,507	54,035	2.7%	54,446	2.8%
群馬	1,726	8	1,718	53,016	3.3%	53,421	3.2%
埼玉	5,392	-183	5,575	178,227	3.0%	178,511	3.1%
千葉	5,764	37	5,727	152,419	3.8%	152,666	3.8%
東京	8,542	107	8,435	316,933	2.7%	316,058	2.7%
神奈川	6,150	116	6,034	206,616	3.0%	205,223	2.9%
新潟	2,599	1,603	996	60,453	4.3%	61,504	1.6%
富山	1,159	-1,479	2,638	28,671	4.0%	28,857	9.1%
石川	1,275	72	1,203	32,402	3.9%	32,306	3.7%
福井	777	-538	1,315	23,026	3.4%	23,235	5.7%
山梨	954	156	798	26,072	3.7%	26,346	3.0%
長野	1,716	-48	1,764	58,983	2.9%	59,093	3.0%
岐阜	2,174	-1,973	4,147	56,451	3.9%	56,681	7.3%
静岡	4,173	-3,481	7,654	100,536	4.2%	100,819	7.6%
愛知	7,720	5,469	2,251	200,277	3.9%	198,951	1.1%
三重	2,215	-76	2,291	50,147	4.4%	50,583	4.5%
滋賀	1,637	-35	1,672	39,755	4.1%	39,510	4.2%
京都	2,471	-30	2,501	72,131	3.4%	72,147	3.5%
大阪	6,679	118	6,561	236,700	2.8%	236,529	2.8%
兵庫	5,892	65	5,827	145,323	4.1%	145,112	4.0%
奈良	1,199	-16	1,215	37,455	3.2%	37,537	3.2%
和歌山	861	10	851	28,053	3.1%	28,523	3.0%
鳥取	779	24	755	15,369	5.1%	15,500	4.9%
島根	816	-39	855	18,714	4.4%	18,889	4.5%
岡山	1,611	8	1,603	54,907	2.9%	55,306	2.9%
広島	2,851	-56	2,907	73,624	3.9%	74,445	3.9%
山口	1,723	-35	1,758	35,131	4.9%	35,340	5.0%
徳島	535	-20	555	19,743	2.7%	19,983	2.8%
香川	919	3	916	26,762	3.4%	26,472	3.5%
愛媛	1,437	8	1,429	35,543	4.0%	36,071	4.0%
高知	538	-15	553	19,492	2.8%	19,831	2.8%
福岡	4,286	-27	4,313	132,304	3.2%	133,038	3.2%
佐賀	1,238	-17	1,255	25,470	4.9%	25,711	4.9%
長崎	2,023	35	1,988	40,330	5.0%	40,868	4.9%
熊本	1,659	39	1,620	49,037	3.4%	49,680	3.3%
大分	1,094	72	1,022	32,226	3.4%	32,787	3.1%
宮崎	1,007	-6	1,013	32,598	3.1%	33,345	3.0%
鹿児島	1,486	-21	1,507	47,126	3.2%	48,026	3.1%
沖縄	854	-43	897	46,812	1.8%	47,413	1.9%
合計	115,115	-462	115,577	3,319,114	3.5%	3,334,019	3.5%

※高校生全生徒数は、文部科学省ホームページ統計情報（http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/main_b8.htm）内、学校基本調査の高等学校＞全日制・定時制 学年別生徒数 からの抜粋

大会観戦ガイド

第101回日本陸上競技選手権大会50km競歩 兼第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン) 男子50km競歩代表選手選考競技会 第56回全日本競歩輪島大会

50km競歩の日本選手権が迫りました！日本トップウォーカーたちが今夏にイギリス・ロンドンで開催される世界選手権の日本代表を懸けて争います。熱い競演にご期待ください！

▼種目・スタート時間：

4月15日(土) 全日本競歩輪島大会	
男子全日本10km競歩	13時00分
男子ジュニア10km競歩	13時00分
女子全日本10km競歩	13時05分
女子ジュニア10km競歩	13時05分

4月16日(日) 日本選手権	
50km競歩	7時30分

4月16日(日) 全日本競歩輪島大会	
女子高校1・2年 3km競歩	9時00分
女子高校 5km競歩	9時30分
男子高校1・2年 3km競歩	10時30分
男子高校 5km競歩	11時30分

▼コース：輪島市文化会館周回コース・日本陸連公認競歩コース(1周2kmの周回コース)

▼アクセス(石川県輪島市文化会館付近)：

石川県輪島市文化会館は「(道の駅輪島)ふらっと訪夢」前。

・能登空港からふるさとタクシーを利用。能登空港発着便に合わせて利用可能(要予約)。

運賃一律900円(1人/片道：輪島市内) 乗合

予約先 港タクシー

TEL：0768-22-2360

・能登空港より特急バス約20分「輪島駅前」下車

・「金沢」駅より特急バス約120分「輪島駅前」下車

▼問合せ：輪島市教育委員会生涯学習課スポーツ推進室全日本競歩輪島大会実行委員会事務局

TEL：0768-23-1176

▼日本陸連WEB内大会ページ：

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1516/>



昨年度の1位・谷井孝行選手と2位・荒井広宙(共に自衛隊体育学校)はリオ五輪代表に

第19回長野マラソン

1998年に開催された長野冬季オリンピックを記念して1999年より開催の長野マラソン。ビッグハット、エムウェーブ、ホワイトリングなどのオリンピックが開催された会場前を通るコースに、10,000人が集います。

▼日時：4月16日(日) 8時30分スタート

▼コース：長野マラソン長距離競走路

(スタート) 長野市吉田・長野運動公園

(フィニッシュ) 長野市篠ノ井東福寺・長野オリンピックスタジアム

▼アクセス：

・長野運動公園

しなの鉄道北しなの線「北長野」駅下車、徒歩約20分
長野電鉄「朝陽」駅下車、徒歩約15分

長野電鉄バス「運動公園」下車

・長野オリンピックスタジアム

JR篠ノ井線、しなの鉄道線「篠ノ井」駅東口より、徒歩約30分

長野駅・篠ノ井駅よりシャトルバス

▼問合せ：長野マラソン大会組織委員会事務局

TEL：026-234-6380

(受付時間：平日9：30～17：00)

▼日本陸連WEB内大会ページ：

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1517/>

▼大会公式サイト

<http://www.naganomarathon.gr.jp>



昨年度の大会の様子

JAAF SHIGA 一般財団法人滋賀陸上競技協会

〒520-3251 湖南市朝国607 坂一郎方
TEL.0748-72-2056 FAX.077-527-3925
http://www.biwako.ne.jp/~srkshiga/

平成29年度滋賀陸上競技協会の事業について

滋賀県の陸上競技の普及と振興、並びに競技力の向上を図ることを目的としています。また、将来的には、あらゆるスポーツや文化に対して、多くのスポーツ面や文化面に関する事業及び滋賀県のスポーツ・文化施設の管理運営に関する事業も行い、もって県民の心身の健全な発達に寄与することを目的とします。平成29年度も下記のような事業を行って行く予定です。

- (1) 競技力向上、普及・振興に関する事業。
- (2) 審判員の養成及び資格の認定・研修、および指導者養成に関する事業。
- (3) 国民体育大会・都道府県対抗男子・女子駅伝等への派遣に関する事業。
- (4) 県選手権大会等陸上競技会の開催事業。
- (5) 陸上競技の施設・設備及び器具の検定並びに公認の申請に関する事業。
- (6) 小学生スポーツ・及びスポーツ活動に関する事業。(小学生陸上チャレンジフェスタ等)
- (7) 第73回びわ湖毎日マラソン大会、レークサイドマラソン大会、土山マラソン大会等の主管や協力。

JAAF KYOTO 一般財団法人京都陸上競技協会

〒615-0872 京都市右京区西京極南衣手町57番2
TEL.075-322-5500 FAX.075-322-5501
http://www.krk26.jp/

京都の駅伝パワーが充実しています。昨年12月、全国小学生クロスカンントリーリレー研修大会で桂徳クラブが初出場で初優勝を遂げました。翌週に行われた全国中学駅伝女子の部で桂中学校が史上2校目となる三連覇の偉業を達成しました。そして全国高校駅伝では洛南高校が8位と2年連続の入賞を果たしました。

2017年1月15日、第35回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会を無事に開催することができました。雪の降る厳しい天候でしたが関係各所の協力のみならず、多くの市民の方々の熱い支えによって大会が開催できたことに感謝申し上げます。最後まで混戦の白熱した競技が繰り広げられ、京都府チームが3年ぶり16回目の優勝を遂げました。

女子駅伝の興奮冷めやらぬ1月22日の全国男子駅伝で京都府チームは4位となり、6年ぶりの入賞を果たしました。1区清水颯大(洛南高)が先頭と3秒差で2区諸富湧(深草中)にタスキをつなぎ、一時は先頭に立ちながらレースを進めました。前半の勢いをアンカー7区の一色恭志(青山学院大)につないでいった結果が4位入賞となりました。

駅伝発祥から100年を迎える今年の4月29日には小学生によるミニ駅伝と記念祝賀会開催を計画しています。京都からスタートした駅伝は、今では「EKIDEN」と世界共通語になりました。発祥の地としての誇りと責任を関係者一同心に刻み、選手育成と競技運営に邁進していきたいと考えております。

(文責：広報部長 相模浩史)

JAAF OSAKA 一般財団人大阪陸上競技協会

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-1 大阪市長居陸上競技場内
TEL.06-6697-8899 FAX.06-6697-8766
http://www.oaaa.jp/

OSAKA2020夢プログラム ベルリン合宿報告

今回は、2020東京オリンピックに向けた標記強化事業の一部をご紹介します。

2016年度の海外合宿としては、海外経験の少ないジュニアアスリートの経験を増やし多くの体験を積んでほしいという目的のもと、今年度は中華台北陸上競技選手権大会への参加、ベルリン合宿、アメリカテキサス州における短距離合宿、オーストラリア合宿・競技会参加事業を実施しました。とりわけ、平成29年1月に約2週間ドイツ・ベルリンにおいて実施したプログラムについては、参加した選手の評価も大変良かったため、少し詳しく報告させていただきます。ベルリンの合宿に使用させていただいた施設は旧東ドイツの時代に建設された国立施設で、あらゆる種類の競技に対応できるように整備されています。今回は、ハードル、やり投種目の競技者が参加しました。指導者は、ドイツナショナルチームを支援している著名な方であり、技術指導に加え、スポーツメディカルチェックを組み込んだとても満足度のいくプログラムとなりました。施設には室内レーンの装備などもあり冬季トレーニング施設としては最高レベルのものでした。また、医療面からのケアも充実しており、遠征前からの腰の痛みを訴えていた選手の治療をしていただきました。遠征後半には、ボツダムで行われた競技会にも参加することができました。今回のベルリン合宿は、最高の環境下での事業となり、参加者全員、ご指導いただいたコーチ、コーディネーターいただいたベルリンの関係者に対し深く感謝しております。

(文責：讃岐)

JAAF HYOGO 一般財団法人兵庫陸上競技協会

〒651-0076 神戸市中央区吾妻通4丁目1番6号
神戸市生涯学習支援センター内
TEL.078-231-1771 FAX.078-231-1772
http://www.haaa.jp/index2.html

神戸マラソン2016は「ありがとう」の42.195kmをキャッチフレーズに「感謝と友情」「自分のために走る」それ以上に「人々のために走る」をテーマに、国内外で様々な困難に直面している人々や地域へ「エールをおくる」マラソンにしたいと考えています。

本年度はウェーブスタートを新しく実施しました。タイム順に複数グループ(ウェーブ)に分けてスタートする方法です。スタート時やコース走行中の混雑緩和を図ること、安全・安心なコース走行に配慮し実施しました。その結果ランナーからも走りやすかったとの声を聞きました。参加者19570人、完走者18814人(96.1%)でしたが、好天にも恵まれランナー達は、沿道応援者60万人の中を快適に走ることができたと思います。

男子第71回・女子第32回兵庫県都都市区対抗駅伝競走大会が、2月5日に加古川河川敷コースで開催されました。「駅伝兵庫」と言われる基礎となっている大会です。小雨降る寒い中、男女各45郡市区の代表が一斉にスタートし、襷を繋いでくれました。

第100回日本陸上競技選手権大会男女20km競歩大会が、六甲アイランド甲南大学公認コースで2月19日に開催されました。前日には100回を記念して歴代優勝者が参加してのレセプションが開催されました。昨年に続き、高橋英輝選手(富士通)が3連覇、世界選手権代表に内定し非常に盛りに上がった大会となりました。

4月22・23日には第65回兵庫リレーカーニバルが開催されます。この大会は「第16回世界選手権」の選考競技会を兼ねており、選手達のパフォーマンスが楽しみです。

事務局からのお知らせ

◆◆2017トラック&フィールドシーズンが始まります!◆◆

今夏、イギリス・ロンドンで開催される第16回世界陸上競技選手権大会へ向けたトラック&フィールドシーズンがいよいよスタート。日本代表選考を兼ねた2017日本グランプリシリーズは下記日程で開催されます。新たなスターの誕生を、歴史的記録樹立の瞬間を、陸上競技場でお楽しみにください!

【2017 日本グランプリシリーズ】

第1戦 TOKYO Combined Events Meets 2017
日時: 2017年4月22日(土) ~ 23日(日)
会場: 駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場
<http://www.toriku.or.jp>

第2戦 第65回兵庫リレーカーニバル
日時: 2017年4月23日(日)
会場: ユニバー記念競技場
<http://www.haaa.jp>

第3戦 第51回織田幹雄記念国際陸上競技会
日時: 2017年4月29日(土・祝)
会場: 広島広域公園陸上競技場
<http://hiroshimaf.org>

第4戦 第33回静岡国際陸上競技大会
日時: 2017年5月3日(水・祝)
会場: 静岡県小笠山総合運動公園エコパスタジアム
<http://www2.wbs.ne.jp/~nagata/t&f/>



第50回織田幹雄記念国際陸上競技会
男子100m決勝



第32回静岡国際陸上競技大会
男子200m決勝

◆◆セイコーゴールドングランプリ 5月21日(日) 開催!◆◆

JAAFワールドチャレンジとして日本で開催される最高峰の国際競技会「セイコーゴールドングランプリ陸上2017川崎」。今年は、5月21日(日)川崎市等々力競技場にて開催します!

リオデジャネイロオリンピックで活躍したアスリートも出場予定。ご注目下さい!



詳細情報は公式ホームページで順次お届けします!

<http://goldengrandprix-japan.com/>

陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩 (陸連会長)
友永 義治 (陸連副会長)
八木 雅夫 (陸連副会長)
尾縣 貢 (陸連専務理事)
伊東 浩司 (陸連強化委員長)
風間 明 (陸連事務局長)
牧野 豊 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

大嶋 康弘
◇時報編集担当
繁田 進
石塚 浩
青木 和浩
宮田 宏
高橋 祐哉
小川ちあき

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>